鋼船規則

B 編

船級検査

鋼船規則 B 編

2014 年 第 3 回 一部改正

2014 年 12 月 19 日 規則 第 76 号

2014 年 7 月 29 日 技術委員会 審議

2014 年 9 月 16 日 理事会 承認

2014 年 12 月 5 日 国土交通大臣 認可

ClassNK
一般財団法人 日本海事協会

2014年12月19日 規則 第76号
鋼船規則の一部を改正する規則

「鋼船規則」の一部を次のように改正する。

B 編 船級検査

6 章 船底検査

表 B6.1 を次のように改める。

表 B6.1 船底検査の項目

検査項目	備考
1 竜骨を含む外板、船首材及び船尾材	<ul style="list-style-type: none"> 腐食を生じやすい箇所、構造の不連続部及び外板の開口部は特に注意して検査する。この際、外板の開口部に取り付けられた格子板を取り外さなければならない。ただし、検査員が差し支えないと認める場合は、格子板の取り外しを省略することができる。
2 舵	<ul style="list-style-type: none"> 持ち上げ又は取り外して、舵板、ピントル、ストック、カップリング及び船尾材の現状検査を行なう。検査員が必要と認めた場合は舵について表 B2.2 に掲げる圧力試験を要求することがある。ただし、各軸受部の間隙計測等により、検査員が現状良好と認める場合は、持ち上げ又は取り外しを省略して差し支えない。
3 乾舷甲板下の排水管、その他の排出管及び海水吸入管（ディスタンスピースを含む。）並びに外板、シーチェスト又は外板付ディスタンスピースに取り付けられた弁及びコック並びにサイドスラスト	<ul style="list-style-type: none"> 弁及びコックは、要部を開放して検査し、これらを取り付けるボルト又はスタッドを検査する。ただし、前回の船底検査時にそれらの弁及びコックの開放検査が行われ、検査員が差し支えないと認める場合は、弁及びコックの要部の開放を省略することができる。 サイドスラストは外観を検査し、船殻構造に影響を及ぼす損傷が無いことを確認する。
4 船尾管後端又は張出し軸受の軸受部	<ul style="list-style-type: none"> プロペラ軸及び船尾管軸との間隙又は軸降下量の計測
5 船尾管シール装置及び張出し軸受シール装置	<ul style="list-style-type: none"> 油潤滑式の場合、効力を確認する。
6 プロペラ	<ul style="list-style-type: none"> 可変ピッチプロペラの場合は、変節機構を作動状態で検査する。
7 アンカー、アンカーチェーン、索、ホーズパイプ、チェーンロッカー及びチェーン係止装置	<ul style="list-style-type: none"> 定期検査に行う船底検査では、アンカー及び索を適当な場所に整備し、アンカーチェーンは適当に整列して、すべてのチェーン及びチェーン用部品が揃っていることを確認するとともに外観を検査する。第2回定期検査以降の定期検査では、アンカーチェーンの径を計測し、アンカーチェーン各連においてリンクの最も衰耗している部分の平均直径が、規則 C 編 27.1.1 による要求直径の 12% 以上減少している場合には、当該連を取り替えなければならない。
8 船体の区画及びタンク	<ul style="list-style-type: none"> 該当する内部検査、精密検査及び板厚計測（事前実施されていない場合） <ul style="list-style-type: none"> (i) 定期検査の時期に行う船底検査又は 4.1.1-2. の規定により行われる上架した船底検査の場合、少なくとも貨物倉／貨物タンク及びバラスタンの軽荷状態における喫水線より下方にある部分について必ず行わなければならない。 (ii) 1.1.6-6. に示す時期に行う船底検査の場合、実行可能な限り行わなければならない。
9 水中検査のための設備等	<ul style="list-style-type: none"> 6.1.2 の規定により水中検査実施が承認されている船舶にあつては、入渠又は上架して行う船底検査において、6.1.2-3. に掲げる事項が適切な状態に保持されていることを確認する。

附 則

1. この規則は、2014 年 12 月 19 日（以下、「施行日」という。）から施行する。
2. 施行日前に申込みのあった検査については、この規則による規定にかかわらず、なお従前の例によることができる。